

15. キャリアサポートセンター

(1) 理念・目的

[現状説明]

キャリアサポートセンターは学生の卒業後の就業に結びつけるためのキャリア形成・就職に関する支援業務を行っている。

キャリア形成・就職支援業務の基本的な考え方は、当大学の建学精神である「真・善・美の探究」に基づいて学び得た学問的専門知識、知的思考力、専門技術（技能）、並びに教職員との触れ合いや学生相互の交流を通して練磨された人間的成長を社会で活かすため、個々の学生に最もふさわしい道を選択できるようにキャリア相談や就職ガイダンス等の具体的支援活動を組織的に行うことである。

[点検・評価（長所と問題点）]

バブル崩壊、IT不況と称された国内経済の悪化による就職氷河期を経て、平成18年、19年は国内景気の回復や団塊世代の定年退職への対応などにより、就職・採用環境は企業における求人急激な増加となり就職バブル再来と称されるほどの大きな変化が起きている。

しかしながら、バブル期に大量採用した社員のミスマッチや短期間における離職者の増加による反省から企業側は採用者の質をキープすることで人選には意を砕いており、企業の求人数が増加したからといって就職が楽になったとは一概には言えない状況もある。また昨今、経済産業省が主導する「社会人基礎力の養成」政策推進にみられるように企業が求める人材像が明確に提示されだしたことやミスマッチによる短期間での離職、卒業時に定職に就かないニート、フリーターが社会問題となって取り上げられていることから就職支援活動も求人を受付けて、それを学生に紹介するという単純な業務の仕方だけでは所期の目的を達し得なくなっているのが実状である。

このような変化にあって就職支援の内容も個々の学生状況、ニーズに対応した実りあるキャリア形成に向けたアドバイスの機会や就職支援メニューを増加させている。さらに、これらの施策を学年単位に計画を割り付けたプログラムを実行し、大学4年間を通してシステマティックに且つスパイラルさせた仕組みで自己成長しつづける意欲をもった学生を送り出す取組みに重点を置いている。

[改善方策]：理念・目的

社会に出てからのキャリア形成を成功に導くためには大学生生活を目的、目標を持って取り組むプロセスがあって始めてより満足のできる就職活動につながり、その後のキャリア形成に導かれていくものとの観点から、キャリアサポートセンターは以下の基本姿勢を打ち出して活動を行っていく。

- 1) 学生をマスで捉え対応するのではなく、個人個人へのきめ細かいフォローを行いつつキャリア形成への成功に繋がる支援を行う。
- 2) 従来は就職活動を迎える3年生を主とした支援活動を展開していたが、キャリア形成に

に向けた大学生生活の充実と就職意識の醸成を促すために低学年（1、2年生）を含めた活動や支援を行う。

3) 教員との連携を強め、キャリア教育とキャリア形成・就職支援活動とが一体となった活動や支援を行う。

今後の活動目標は以下の通りである。

- ① 学生個人との接点増加につながる事業を強化する。
- ② IT化により求人情報、就職活動関連の各種情報を提供、学生からの就職活動結果報告などの促進を図る。
- ③ 企業、職種の実地研究（企業訪問）を強化する。
- ④ 卒業時の進路不詳者をゼロにする（3年後を目指す）

(2) 組 織

[目標]

- 1) 当センターの理念・目的を達成するために学生と教職員相互への連携をスムーズに行い、期待に応えることの出来る体制を常に検証していく。
- 2) 当センター職員の専門職としての能力向上を目指す。

[現状説明]

現在はセンター長以下7名にて学生のサポートを行っており、3学部に対してはそれぞれ担当を決めて運営している。

キャリアサポートセンターが縦組織であることで指示命令系統ならびに意思伝達に時間がかかり、ややもすると正確性が失われることへの対策として、週1回の定期的センター内ミーティングが開かれている。

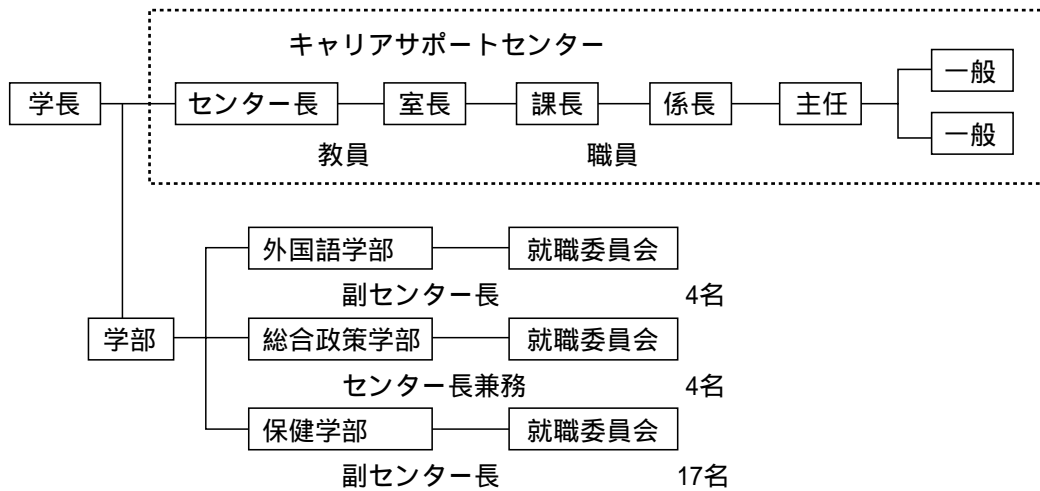
また、職員のキャリア差における業務品質のバラツキに対しても定期ミーティングでの全学部の視点での検討や個別課題設定によるon-the-job training（以下OJT）の取組み、私学就職研究会等による外部各種研修会、企業への実地研究などを通してレベルアップを図っている。

更に、学生個人とのより強い接点を持ち、きめ細かいフォローをすすめるためには学生個人へのアプローチが可能な仕組みが必要である。

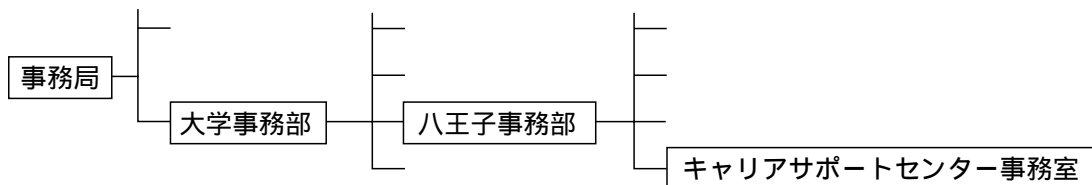
就職全般の活動組織はセンター長の教授を中心に副センター長として教授が任命されており、各学部の就職委員会が運営されている。就職委員会は定期的で開催され、運営に関する討議がなされている。また、重要な事案についてはセンター長及び副センター長との擦り合わせを行い3学部の意思疎通をはかっている。

現行の組織図は別表15-1の通りで、本組織は学長直轄機関である。また、学生の満足度を向上させるため事務機能の連携をはかり、個々の課題に対してスピーディな対応を図ることを目的に下記事務組織（別表15-2）を以って実務運営されている。

別表15-1 大学組織におけるキャリアサポートセンター組織



別表15-2 大学事務組織におけるキャリアサポートセンター組織



[点検・評価（長所と問題点）]

教員組織としてはセンター長を統括者として、センター長が兼務する学部のほか、2学部名副センター長を統括者とした就職委員会が設置されている。

就職委員会は各学部の教授会において就職活動報告並びに就職に関する事項の報告等を行っている。これらの機能により就職に関するすべての事項は全学部へ伝達される仕組みになっている。学生に対する就職支援内容、ガイダンス、資格講座の伝達、周知はキャリアサポート専用の掲示板や必要に応じて各学部の掲示板においても周知されている。しかしながら、掲示による周知は充分とは言えず、ホームページなども活用している。また、携帯電話を活用した情報伝達の発達を捉えて、学科による就職先が概ね特定できる保健学部の学生に対して、求人情報を主とした双方向の情報交換を導入した。

学生に対するキャリアコーチ技術はOJTを中心に繰り返し取り組んでおり成果が出てきている。また昨年からはセンター職員の企業訪問にも力を入れている。

[改善方策]：組織

- 1) 大学として導入する新たな情報システムを活用し、学生個人との接点を増やして、キャリア支援・就職活動支援を行う。保健学部においては携帯電話を活用した双方向の仕組みがあり、これも活用する。
- 2) 就職委員会運営は、センター長ならびに副センター長が統括者となって各学部単位に運営されているが、当センター内においてもセンター長、副センター長を交えた会議を定期的に開催し、教職員間の連携を密にする。
- 3) センター職員のレベル向上のためには企業の実態を学ぶことが重要であり、全職員が企業という現場にて研究する機会を増やしていく。

(3) 活動内容

[目標]

キャリア形成に向けて目標をもって大学生活を過ごすための支援プログラムを低学年から導入する。その結果として学生にとって満足のできる就職活動につなげ、就職率の向上と卒業時における進路不詳者を出さない取組みを行っていく。これらの考え方と施策がシステマティックに行われることで学生個人のキャリア形成支援・就職支援につながることを目標とする。

[現状説明]

今年度からキャリアサポートセンターが主催する各種の事業を「学生生活のしおり」に学年暦として掲載した（別表15-3）。これにより全学年並びに教職員に当センターのサポートメニュー、開催時期が明示され計画的な取組みが可能となった。

民間企業における採用の早期化や厳選化に対応するため、3年生の前期には就職ガイダンスを開催し、前期中にキャリアサポートセンター職員による自己分析、業界・企業研究の講座を開催している。また、病院への就職を目指す保健学部の学生に対しては4年生前期にガイダンスを設け、同期に面接指導などのプログラムを導入している。

今年度からキャリア形成につながる低学年向けの支援に関しては、授業で行われるキャリア教育をサポートするために基礎学力テストや企業による職業説明会、企業訪問にて直接学ぶ機会を設けた。

学内資格取得講座のうち、特にパソコン技能やビジネスマナー実務について低学年からの応募が増加傾向にあり大学生活にも役立っている。

別表15-3 平成19年度 キャリアサポートセンター学年暦

前期

2007年	日程	学部	学年	行事	備考
4月	2日～4日	全学部	全学年	オリエンテーション キャリアガイダンス	
		総合政策学部 外国語学部	1年	基礎能力試験	
		全学部	全学年	学内資格講座説明	
	21日	保健学部	4年	第一回就職専門模擬試験	
	23日～26日	全学部	4年	Fresh Start講座	就職活動実践講座
	11日～ 7月11日	全学部	全学年	ジョブカフェ	水曜3限開催（企業の採用担当者 来校）
5月	7日～ 7月13日	総合政策学部 外国語学部	3年	出張ゼミ講座	
	26日	保健学部	4年	第二回就職専門模擬試験	
6月	16日	保健学部	3年	第一回就職ガイダンス	1・2年生の参加可
		保健学部	3年	一般常識試験・基礎学力試験	1・2年生の参加可
		保健学部	4年	第三回就職専門模擬試験	
		総合政策学部	3年	就職ガイダンス	外国語学部は現代日本社会特論の 授業時
		総合政策学部	3年	基礎能力試験	外国語学部は現代日本社会特論の 授業時
7月	2日～13日	全学部	3年	就職ミニ講座	自己分析・業界研究
	14日	全学部	4年	OB・OG採用企業説明会	3年生参加可
8月	各講座とも 別途掲示	全学部	全学年	夏季集中資格講座	
	1日～3日	全学部	1・2年	社会（企業）見学	
	8月～9月	総合政策学部 外国語学部	2～4年	インターンシップ研修	事前・事後指導含む
9月	18日		4年	学位記授与式（三鷹校舎）	

後期

2007年	日程	学部	学年	行事	備考
9月	9月20日	保健学部	2年	就職ガイダンス	一般常識試験含む
		総合政策学部 外国語学部	1年	オリエンテーション キャリアガイダンス	
10月	13日	総合政策学部	3年	就職ガイダンス	外国語学部は現代日本社会特論の 授業時
		総合政策学部	3年	第1回就職模擬テスト	外国語学部は現代日本社会特論の 授業時
	22日～ 12月21日	総合政策学部 外国語学部	1・2年	出張ゼミ講座	他学年のゼミ出張講座も可
	22日～ 11月22日	全学部	3年	就職ミニ講座	履歴書、マナー、面接、等
	3日～ 12月19日	全学部	全学年	ジョブカフェ	水曜3限開催（企業採用担当者）
11月	17日	保健学部	3年	第二回就職ガイダンス	1・2年生の参加可
	27日～30日	全学部	3年	就職応用講座	エントリーシート・論文作等
12月	15日～16日	全学部	3年	就職実践セミナー	集団面接・グループディスカッション 対策
	20日～21日	全学部	3年	第2回就職模擬テスト	SPI・GAB試験等
2008年 1月	9日	総合政策学部	3年	就職ガイダンス	外国語学部は現代日本社会特論の 授業時

2月	4日	全学部	3年	第3回就職模擬テスト	SPI試験
	5日～6日	全学部	3年	学内合同企業説明会	八王子東急スクエアで開催
3月	18日		4年	学位記授与式（八王子校舎）	

[点検・評価（長所と問題点）]

就職相談における重要な支援は「自己分析」のサポートと「企業・職種」研究への手助け及び「面接」の実技を通じたフォローである。

これらの支援は講座方式及び面接訓練は個人対応を行っており、参加者からは好評を得ているがさらに多くの学生をサポートする為には機会の提供を増加させていく必要がある。今年度は土曜日を利用したキャリア・就職関係特別相談日を3回設けた。1回当たりの相談者は若干名であった。

学内資格取得講座に関しては現在、パソコン技能検定1～3級、秘書検定、ビジネス実務マナー講座、公務員講座、FP（フィナンシャル・プランナー）講座、旅行業務取扱管理者講座、シスアド（システムアドミニストレータ）講座、販売士講座、英会話ベーシック講座、TOEIC講座、英語表現講座を設けており、キャリア形成に役立っている。

[改善方策]：活動内容

- 1) 低学年（1～2年次）へのアプローチを強化する。その為には各学年の前期授業開始時におけるオリエンテーションにおいてキャリア形成支援・就職支援につながる当センターの施策について説明機会を設ける。低学年を対象とした行事、企画は、新たな情報システムや掲示などを通して周知していく。またゼミや授業の一環として、キャリア形成支援・就職支援につながる内容の講義をより多く導入するよう働きかけていく。
- 2) 3～4年生については、学生個人との接点を増やし、個別相談、個別サポートを強化していく。このために毎月、ゼミ担当教員と進路決定調査を行い連携を深める。また新たな情報システムを活用して当センターの事業広報や良質な求人内容を開示し、応募促進を図る。
- 3) 学内資格取得講座は、キャリア形成に役立っているが、これらの講座のレビューとともに企業や学生のニーズを捉え、毎年の見直しを行っていく。
- 4) 年1回開催する企業との情報交換会は約150社の参加を得ており、教職員ともに直接企業の人事担当と意見交換が可能な重要イベントである。同時に実績企業への訪問を通して当センターの事業計画や学生個人へのサポートにつなげている。今後は地元エリア企業群との新たなリレーションづくりやさらに新規企業開拓により学生満足度の向上に努める。
- 5) 当センター職員は、大学就職指導研究会、日本私立大学協会、全国私立大学就職指導研究会、多摩地区大学就職研究会の活動に参加すると共に、就職情報提供各社のイベントに積極的に参加して、外部情報を取り込み、学生の就職を支援してきた。今後は当センターが就職先フォーキャストを作成して、企業と学生の間をさらに近いものにしていく。

(4) 施設・設備等

[目標]

学生が気軽に立ち寄り、利用目的が十分に果たすことの出来る施設、設備を目指し更なる改善を行う。

[現状説明]

学生の自主利用や個別相談スペースとして15席、相談・面接練習並びに来客用として2室、学生のパソコン自主練習やインターネットによる情報収集用のパソコン20台、キャリア支援や就職支援に活用する書籍・資料を用意している。また、気軽な入室を促すためにクラシック音楽を流し、当センター職員が進んで声をかけることにより来室数の増加につなげている。

[点検・評価（長所と問題点）]

平成18年夏季中にレイアウト変更に伴いハード・ソフト両面の改善を行った。平成19年度には書籍・資料等の見直しにより充実を図ってきた。過去に比して個人相談件数も増加はしているがさらに来室数を増加させ、学生と当センター職員の直接的な接点を増やしていきたい。

[改善方策]：施設・設備等

- 1) 学生にとって価値ある情報を提供し、より満足度を上げるために書籍や情報を充実させていくことが求められる。この為に前期、後期スタート時に合わせて書籍類の選定や公務員、企業、先輩就職記録などの情報整備を行う。
- 2) より多くの学生に来室してもらえるために、各種ガイダンス、HP、掲示等によって興味を持てるトピックスをタイミングよく発信していく。
- 3) ハード面や対応技術の向上については、利用者側に立った見直しを随時行い、実践していく。

(5) 管理・運営

[目標]

当センターが担う業務は当大学生が在学中に自己成長をはかり、卒業後のキャリア形成の成功につながるためのキャリア支援・就職支援を行うことであり、その目的を達成するために管理・運営体制を整え、センター長が統括し、事務的な事項については室長がその責務を遂行する。

[現状説明]

当センターでは以下の業務を行っている。

- 1) 就職支援関連の企画、運営（ガイダンス、資料刊行、講座開設）
- 2) 求職の登録
- 3) 応募書類添削支援

- 4) 求人の開拓、受付、掲示（周知）、整理
- 5) 学内企業説明会、
- 6) 求人企業との情報交換会
- 7) 各種資料の整備
- 8) キャリア・就職相談、面接練習
- 9) 各学部就職委員会サポート
- 10) 各種データ管理

これらの業務をキャリアサポート学年暦に落とし込んで、学生並びに教職員にオープンにしている。年間業務予定を関係者が何時でも見ることが出来、事業ごとには掲示やホームページ等を活用して周知している。

[点検・評価（長所と問題点）]

就職活動を迎える3年生、4年生に向けたサポートメニューの充実をはかってきた。これらのメニューをより有効活用を促すために学生個人との接点を増やすべく事業ごとに周知を行っているが満足な結果とはなっていない。

また1年生、2年生が活用できる事業の周知も行っているが、この結果も満足とは言い難い。

[改善方策]：管理・運営

新たに導入される情報システムを有効に活用し、事業の目的ごとの情報を対象学年に配信していく。また各学年の学生にとって有意義な事業を企画するために学生の声を聞く場を設定する。